

# 首都直下地震対策に係る被害想定結果について

平成16年12月15日  
平成17年 2月25日(一部改訂)

## 1. 被害想定的前提条件

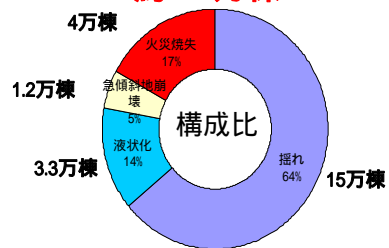
- 18タイプの地震動を想定(東京湾北部等)
- 4つのシーン(冬朝5時、秋朝8時、夏昼12時、冬夕方18時)を設定
- 風速は3 m/s(阪神・淡路大震災)と15 m/s(関東大震災)の2パターンを設定

## 2. 被害の概要(東京湾北部地震M7.3)

### (1) 冬朝5時 風速3 m/s

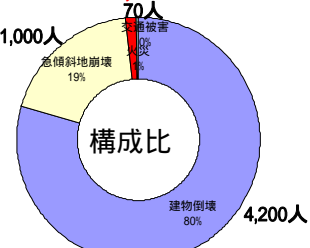
建物全壊棟数・火災焼失棟数

約23万棟



瓦礫発生量約8,300万トン

死者数 約5,300人

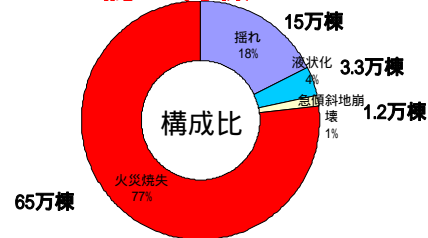


負傷者数(重傷者含む)約160,000人  
重傷者数約17,000人

### (2) 冬夕方18時 風速15 m/s

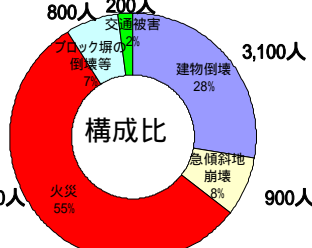
建物全壊棟数・火災焼失棟数

約85万棟



瓦礫発生量約9,600万トン

死者数 約11,000人



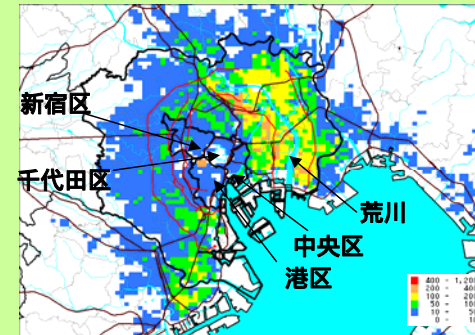
負傷者数(重傷者含む)約210,000人  
重傷者数約37,000人

18タイプの地震動中、建物全壊棟数が最大となるのは東京湾北部地震(約85万棟)。死者数が最大となるのは都心西部地震(約13,000人)。

都心部への滞留者が特に多いと考えられる昼12時で、約650万人の帰宅困難者の発生を想定。

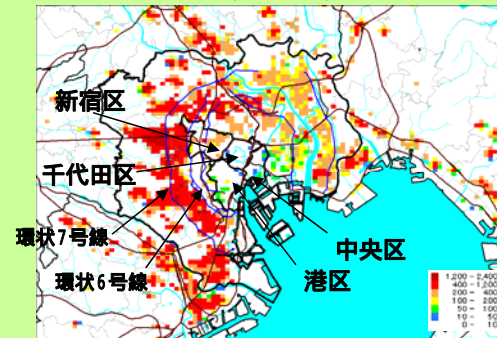
## 3. 被害結果の分布(東京湾北部地震M7.3)

揺れによる全壊棟数の分布(都心部)



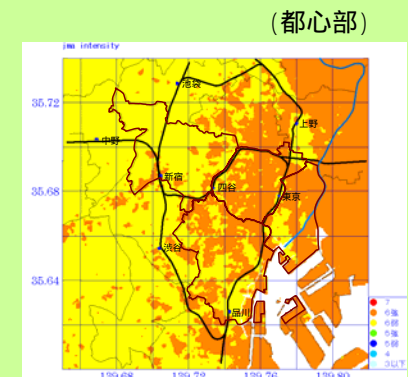
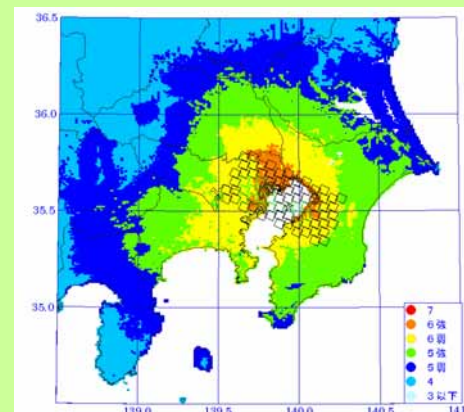
- ◆ 都県域を超えた広域的な被害
- ◆ 荒川沿いの全壊棟数が顕著

焼失棟数の分布(都心部) < 冬18時、風速15mケース >



- ◆ 木造密集市街地(環6、環7沿い)の焼失が顕著
- ◆ 都心部では不燃化が進展

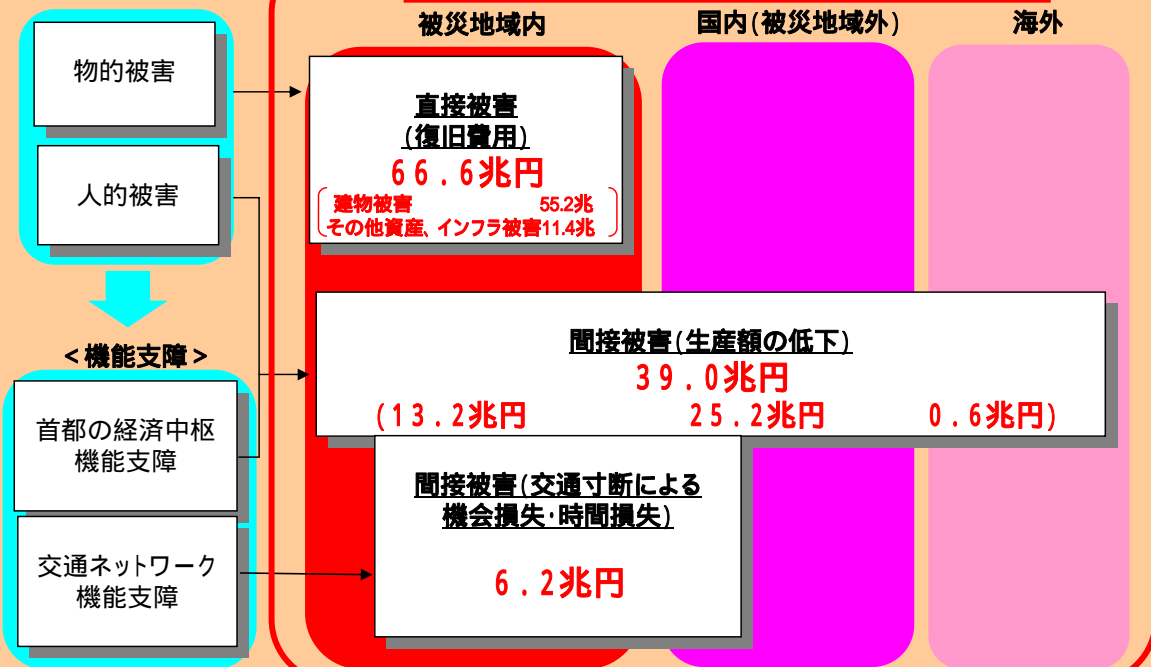
## (参考) 東京湾北部地震M7.3の震度分布



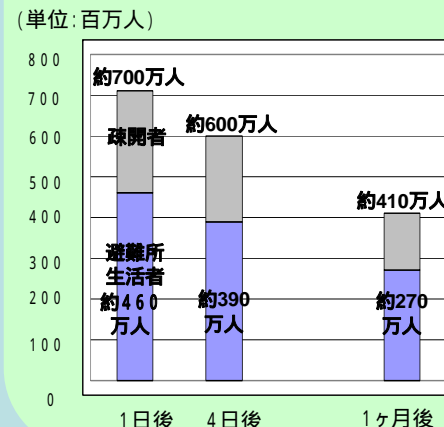
# 首都直下地震対策に係る被害想定(経済被害等)について (東京湾北部地震M7.3 18時 風速15m/s)

平成17年2月25日

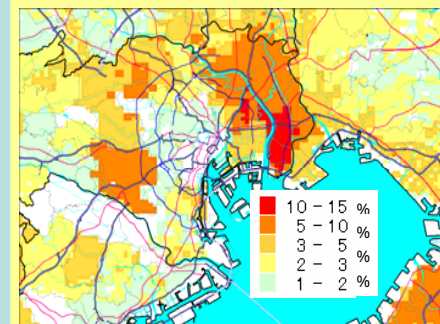
**経済被害 約112兆円**



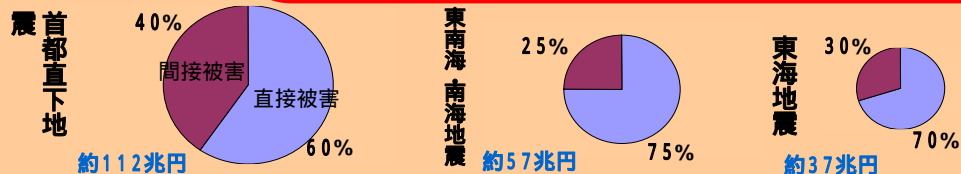
**避難者 最大 約700万人**  
(そのうち避難所生活者は約460万人)



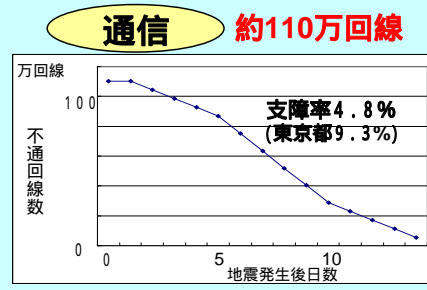
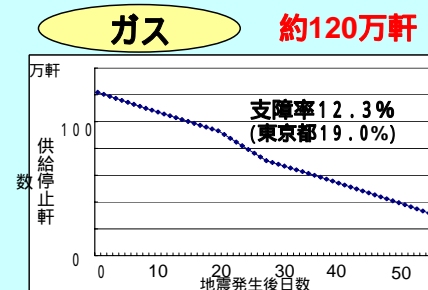
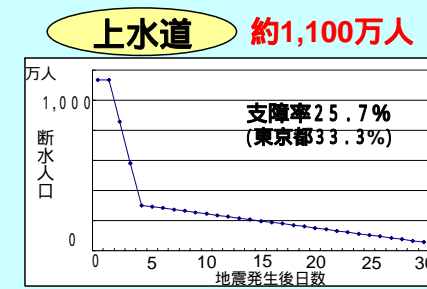
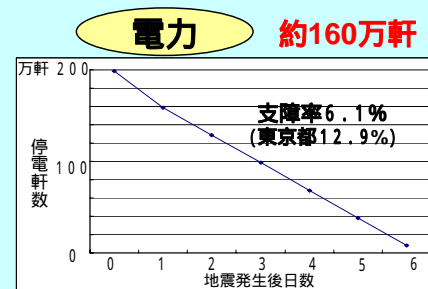
**細街路閉塞**  
(救助活動・復旧活動の妨げ)



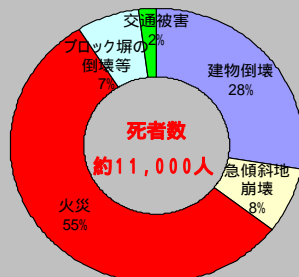
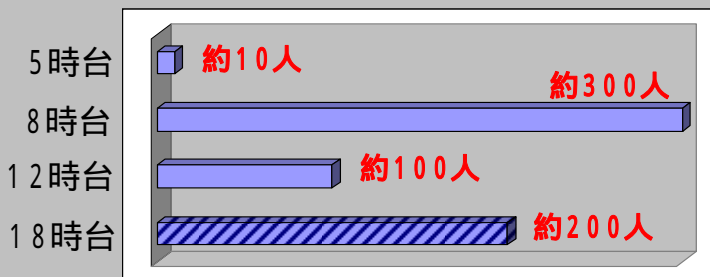
「細街路閉塞」とは、倒壊した周辺 家屋の倒れ込み等により、狭幅員の道路で通行支障が発生すること



**ライフライン施設被害による供給支障**



**交通(鉄道、道路)被害による死者 約10人~約300人**



支障率は、発災1日後の供給対象数に対する供給停止数の割合 支障数は、発災1日後の数